

教科 科目名	芸術科(音楽)	学年・科目群	3学年・選択A	この科目では、各自が設定した楽器を継続的に取り組み、学年末にコンサートで成果を発表します。最初は鍵盤楽器(ピアノ)・弦楽器(ギターまたは文化箏)・管楽器(リコーダーまたはその他の管楽器)をそれぞれ体験し、その中から興味・関心のある楽器を1つ選び、最終コンサートに向けて表現力や技能を高めていきます。
	楽器演奏法基礎	単位数(年間授業時数)	3単位(105時間)	

学習目標 ～科目で身に付けられる「ちから」～			器楽に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
三 の 柱	(1)	知識及び技能	楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
	(2)	思考力・判断力・表現力等	音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。
	(3)	学びに向かう力、人間性等	音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。
教科 書材	演奏に必要な楽譜や教本、資料等については別途配布します(ただし、個人的に演奏したい曲の楽譜は原則各自で用意してください)。		
ポイント	(1) 初回の授業に示す「授業のルール」を守り、積極的に音楽の活動に取り組んでください。 (2) 楽譜やプリントを多く配布します。配布物を整理するために、ファイルを必ず用意してください。また、個人的に演奏したい曲の楽譜は、原則各自で用意してください。 (3) 音楽室や楽器庫にある机や椅子、リコーダー等の楽器や備品などの取り扱いには、十分注意をしてください。 (4) 各分野基礎で学んだ楽器以外の演奏を希望する場合は、個別の事情を考慮して対応の可否を判断します。 (5) 音楽系専攻の大学や保育系の進路を志望しており、その分野に必要な専門的な技能の習得を希望する場合は、可能な範囲でサポートしますので、お早めに申し出てください。		
学習 評価	評価の観点		
	a	知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解している。 ・創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、器楽で表している。
	b	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、様々な知識や技能を関連させどのように表すかについて独自の表現意図を深めている。
	c	主体的に取り組む態度	主体的・協働的に表現の学習活動に取り組もうとしている。

学期	月	単元名	学習内容	このように学ぶことで…	こんな力が身に付きます	評価の方法	時数
前期	4	管楽器基礎(リコーダー)	・リコーダーの基礎的な技能と奏法 ・リコーダー独奏またはアンサンブル	リコーダーの独奏やアンサンブルを通して、リコーダーに関する技能を応用しながら、音色や表現を工夫して個性豊かに表現する	継続して挑戦する力	知 毎時間の演奏の状況 思 活動の様子や演奏活動記録 感 活動の様子や相互評価記録	9
	5	弦楽器基礎(クラシックギター)	・ギターの基礎的な技能と奏法 ・ギター独奏またはアンサンブル	ギターの音色や表現の特色を味わうとともに、ギターに関する技能を応用しながら、音色や表現を工夫して個性豊かに表現する	継続して挑戦する力	知 毎時間の演奏の状況 思 活動の様子や演奏活動記録 感 活動の様子や相互評価記録	9
	6	和楽器基礎(文化箏)	・文化箏の基礎的な技能と奏法 ・文化箏独奏または二重奏	和楽器に親しみ、その特色を味わうとともに、奏法を身に付けたり、器楽に関する技能を応用したりしながら、音色や表現を工夫して個性豊かに演奏する	継続して挑戦する力	知 毎時間の演奏の状況 思 活動の様子や演奏活動記録 感 活動の様子や相互評価記録	12
	7	鍵盤楽器基礎(ピアノ)	・ピアノの基礎的な技能と奏法 ・ピアノ独奏または連弾	ピアノの音色や表現の特色を味わうとともに、ピアノに関する技能を応用しながら、音色や表現を工夫して個性豊かに表現する	継続して挑戦する力	知 毎時間の演奏の状況 思 活動の様子や演奏活動記録 感 活動の様子や相互評価記録	9
	8	個人課題探究①	・管楽器・弦楽器・和楽器・鍵盤楽器のうち、任意の楽器を選択	各器楽分野の基礎について学んだことを基に、個人で任意の器楽を課題として設定して、技能と表現力の向上の実現に向けて探究する	探究する力	知 毎時間と中間発表会の演奏 思 活動の様子や演奏活動記録 感 活動の様子や相互評価記録	9
	9	個人課題探究②	・管楽器・弦楽器・和楽器・鍵盤楽器のうち、任意の楽器を選択	個人課題探究①の成果や課題を基に、継続または新規で課題を設定して、技能と表現力の向上の実現に向けて探究する	探究する力	知 毎時間と中間発表会の演奏 思 活動の様子や演奏活動記録 感 活動の様子や相互評価記録	14
	10	個人課題探究③	・管楽器・弦楽器・和楽器・鍵盤楽器のうち、任意の楽器を選択	個人課題探究②の成果や課題を基に、継続または新規で課題を設定して、技能と表現力の向上の実現に向けて探究する	探究する力	知 毎時間と中間発表会の演奏 思 活動の様子や演奏活動記録 感 活動の様子や相互評価記録	14
	11	個人課題探究④	・個人課題探究①～③で取り組んだ楽器のうち、さらに深めたい楽器を選択	最終成果発表会に向けて課題を設定し、楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付ける	探究する力	知 毎時間と中間発表会の演奏 思 活動の様子や演奏活動記録 感 活動の様子や相互評価記録	14
	12	個人課題探究⑤	・最終成果発表会に向けた演奏曲の決定と研究	最終成果発表会に向けて設定した課題について、音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつ	探究する力	知 毎時間と中間発表会の演奏 思 活動の様子や演奏活動記録 感 活動の様子や相互評価記録	8
後期	1	コンサートに向けて	・プログラムノートの作成 ・コンサートの実施に向けた準備	最終成果発表会に向けて、これまでの探究活動を振り返り、プログラムノートに思いや意図を記すとともに、コンサートに向けた準備を行う	創造する力	知 リハーサルの演奏 思 活動の様子や演奏活動記録 感 活動の様子	5
		最終成果発表会	・1年間の集大成としてのコンサート ・活動の振り返り	1年間の成果をコンサート形式で発表し、校内外に発信する	探究する力・創造する力	知 最終発表会の演奏 思 プログラムノート 感 最終振り返り	2
							105

教科 横断	単元	個人課題探究①～⑤	4～5歳の幼児期に人間の聴覚が最も発達することを踏まえ、この時期にたくさんの音楽を聴き、歌い、弾く体験を重ねるために保育の視点からどのように与えるかについて、ピアノ実技と保育実習を関連させて理解を深める。
	関連	保育基礎	